

令和元年度岡山市市民協働推進モデル事業 最終評価表

実施団体	NPO 法人岡山ニャンとかし隊		
協働部署	保健所 衛生課		
記入日	令和2年3月1日		

1. 事業の目標と達成状況

目標	目標に対する現在の状況と今後の対応	ESD・市民協働推進センターより
所有者のいない猫対策講座／各回参加者 10 名以上	<p>①7月7日(岡南公民館):24名                      ②7月28日(操山公民館):25名                      ③8月18日(北公民館):17名                      ④9月22日(御南西公民館):5名(台風の影響あり)                      ⑤妹尾公民館 : 22名                      全5回の平均:18.6名                      台風の影響を受けた第4回講座以外で目標を達成することができた。前年度と同様にニーズ調査事業にて地域猫活動への関心が高かった地域を開催地に選定したことが目標達成の大きな要因と思われる。</p>	<p><b>【相互理解の原則】</b>                      ニーズ調査事業を含めると3年度に渡る協働事業となるため、相互理解は十分に進んでいます。対策講座においては捕獲や搬送などの実践ノウハウに関する部分を実施団体が担い、制度の活用や書類様式の説明などを担当部署が担うなど、適切な役割分担がなされていました。</p> <p><b>【目的共有の原則】</b>                      実施団体は動物愛護の推進のみを目的としておらず、市民の生活環境の改善や制度の普及・啓発など、課題を包括的に捉える視点と解決に要する多様な情報・ノウハウを有していたため、無理なく目的が共有できていたと思われます。NPO が行政と目的を共有する際には理想や手法に固執しない、限定しすぎないことが重要であることを実感しました。</p> <p><b>【対等の原則】</b>                      定期的で開催されていた会議では双方が自由に主張を行い、それぞれの主張が尊重されていまし</p>
保護・搬送支援サービスボランティア養成／年間 10 名	<p>①ボランティア養成講座参加者:13名                      ②ボランティア活動実践者:3名                      ③岡山理科大学専門学校のボランティア:21名                      要請された地域猫活動ボランティア(②+③):24名                      動物愛護への関心が高い個人だけでなく、岡山理科大学専門学校、岡山大学(アゴラ)など学校やボランティアグループとの連携をはかった。特に岡山理科大学専門学校は動物看護学科や動物飼育学科に属する学生に飼い主のいない猫と接する経験を提供できることから相補的かつ継続的な連携につながっている。</p>	

<p>前年度講座参加者の活動支援／3 団体</p>	<p>実績なし。 前年度の講座後に地元での説明会開催を希望されたのは 8 町内会。うち 4 つの町内会ではすでに活動への取組がはじまっていた。残りの 4 つの町内会に追加で状況を確認したところ、2 つの町内会にてすでに問題が解消されていたほか、残りの 2 町内会とは連絡が取れなかったため、活動支援を実施しなかった。</p>	<p>た。また、どちらかに役割や責任が偏ることなく、お互いが相手の負担を配慮しながら事業が進められていました。</p> <p><b>【自主性及び自立性尊重の原則】</b> 意思決定においていずれかが不当に干渉することなく、十分に自主性と自立性が尊重されていました。</p>
<p>パッケージの磨き上げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の内容を精査した。掲載内容を時系列で整理したほか、実物の写真を多用した。</li> <li>・講座以外でも町内会を対象とした「捕獲支援」や「搬送支援」などの支援メニューを整理することができた。</li> </ul>	<p>た。一般施策化においても実施団体のみを対象としたものではなく、活動の広がりや優先された制度設計となっています。</p>
<p>一般施策化に向けたアクション</p>	<p>新規に地域猫活動を開始する町内会等を対象とした補助制度が創設されることになった。これにより希望者は上限 2 万円の補助金を利用して「NPO 法人岡山ニャンとかし隊」をはじめとする市内の実践団体から「捕獲支援」や「出張相談」などの支援を受けられるようになる。</p> <p>(一般施策化を後押ししたと考えられる要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施期間を通じて岡山県獣医師会や岡山理科大学専門学校をはじめとした関係機関との連携が強化され、地域猫活動をサポートする環境の整備が進んだ。</li> <li>・モデル事業の実施期間に地域猫活動の指定団体や不妊去勢手術の助成件数が急増していること。指定団体については令和元年度だけで 26 団体が新たに指定されている。(2 月末時点で全 83 団体)これは岡山市だけに見られる状況であることから 2 年度に渡って開催してきた対策講座の影響(波及効果)であると考えられる。</li> <li>・積極的な情報発信。岡山大学附属中学校のキャリアフィールドプログラムや環境学習センター「アスエコ」主催のパ</li> </ul>	<p><b>【公開の原則】</b> 実施団体が定例会議、講座、その他のイベントごとに議事録または報告書を作成し、担当部署、市民協働企画総務課、ESD・市民協働推進センターと共有していました。講座、イベントの様子は実施団体のブログで写真とともに報告が行われ、広く市民に対して事業の進捗情報が開示されていました。</p> <p><b>【その他】</b> 次年度以降の事業展開についても情報交換がなされており、講師派遣や小・中学校への働きかけなど、新たな連携が生まれる期待が持てました。</p>

	<p>ネル展に参加。また、地域猫活動を紹介する市政テレビの視聴率は8.3%であった。また、3月から5月にかけて実施する犬島でのTNR活動にはKSBテレビが同行取材する予定となっている。</p>	
成果の示し方について	<p>現時点では飼い主のいない猫の数を把握できている地域猫活動の指定団体がほとんどいないため、正確な数を把握することは難しく(指定団体数が増えるとさらに困難になる可能性があり)猫の数を成果指標とすることは難しい。</p> <p>(代替指標の案)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域猫活動の指定団体数</li><li>・不妊去勢手術の助成件数</li><li>・保健所へ寄せられる苦情の件数</li></ul> <p>なお、保健所へ寄せられる苦情の件数は一昨年より年間900件前後で推移しているが、苦情の内容が変化しており、最近では地域猫活動を知っている(期待している)という声が増えている。</p>	